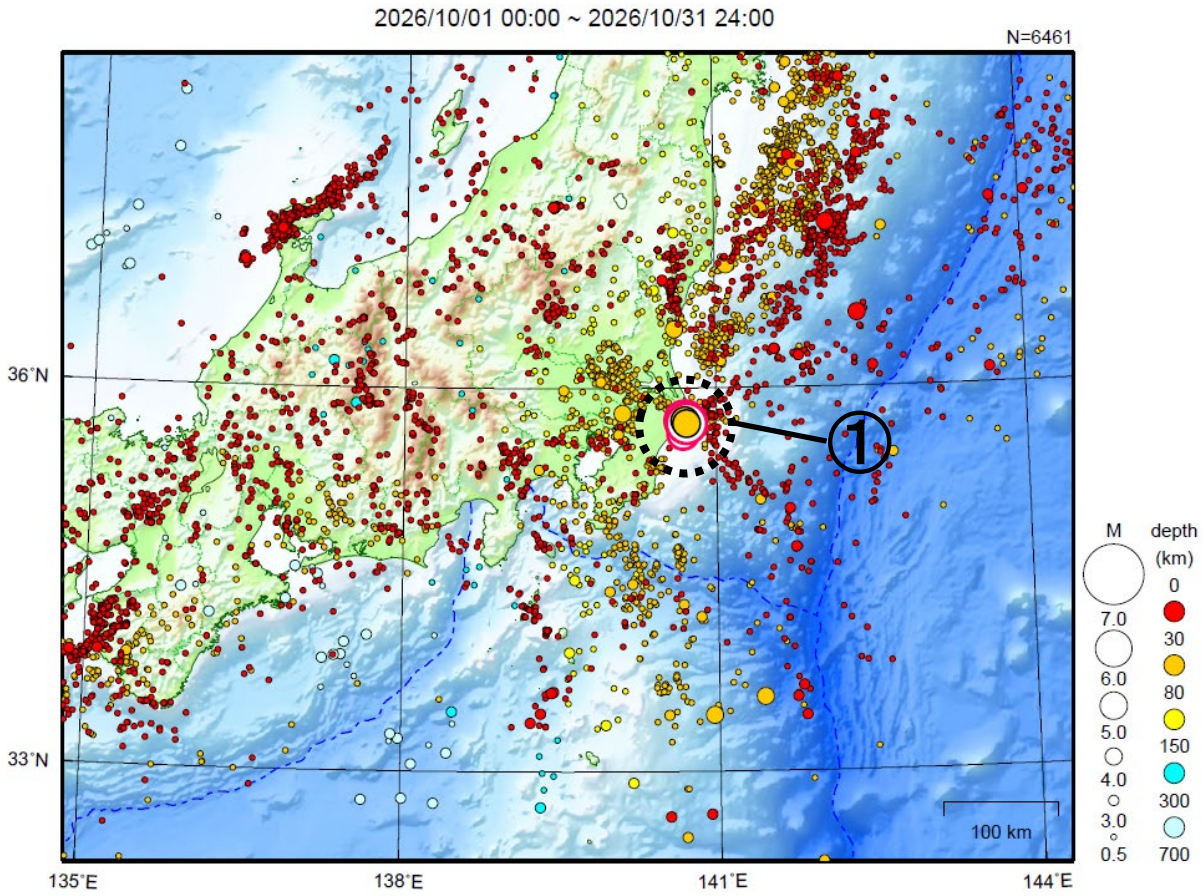
関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 千葉県北東部から千葉県東方沖にかけては、10 月 1 日に M5.2 の地震(最大震度３)、10 月 8 日に M4.7 の地震(最大震度４)、10 月 29 日に M5.5 の地震(最大震度５弱)が発生した。これらの地震の震央付近では、10 月中に震度１以上を観測する地震が 11 回（震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：１回、震度２：４回、震度１：４回）発生した。

（上記領域外）

10 月 4 日に硫黄島近海で M6.0 の地震（震度１以上を観測した地点はなし）が発生した。

10 月 25 日に小笠原諸島西方沖で M6.8 の地震（最大震度３）が発生した。

（上記期間外）

11 月 8 日に愛知県東部で M5.7 の地震（最大震度５強）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔静岡県西部〕である。

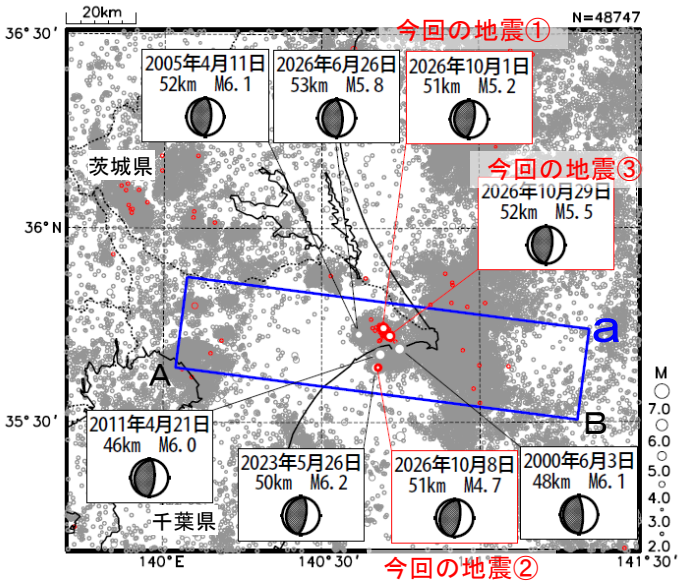
［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

千葉県北東部から千葉県東方沖にかけての地震活動

10 月８日に発生した M4.7 の地震の情報発表に用いた震央地名は〔千葉県北東部〕である。

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日、
深さ０～120km、M≧2.0）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示

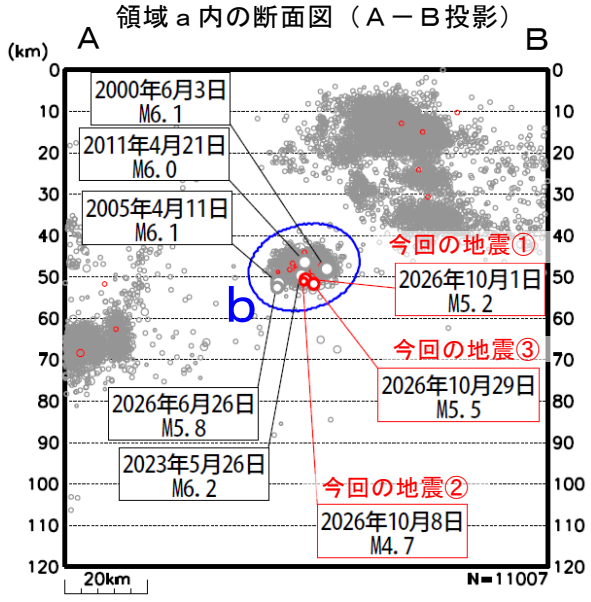


2026 年 10 月１日 21 時 27 分に千葉県北東部の深さ 51km で M5.2 の地震（①、最大震度３）が、10 月８日 04 時 13 分に千葉県東方沖の深さ 51km で M4.7 の地震（②、最大震度４）が、また、10 月 29 日 00 時 07 分に千葉県北東部の深さ 52km で M5.5 の地震（③、最大震度５弱）が発生した。これらの地震は、発震機構が東西または西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

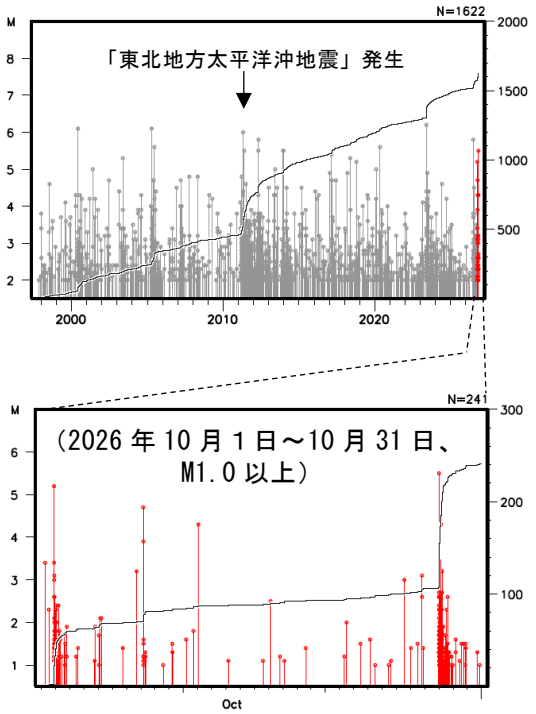
これらの地震の震源付近では、10 月中に震度１以上を観測する地震が 11 回（震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：１回、震度２：４回、震度１：４回）発生した。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）はＭ５以上の地震が時々発生しており、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降、より活発になっている。2005 年４月 11 日には M6.1 の地震（最大震度５強）が発生し、負傷者１人などの被害が生じた（被害は総務庁消防庁による）。

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）

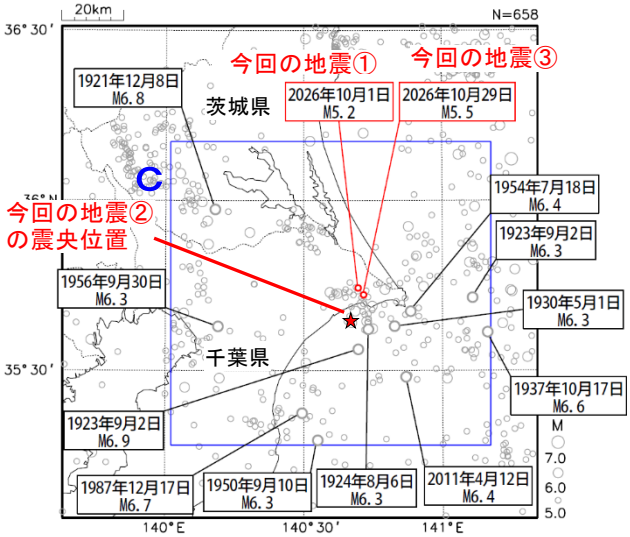


領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



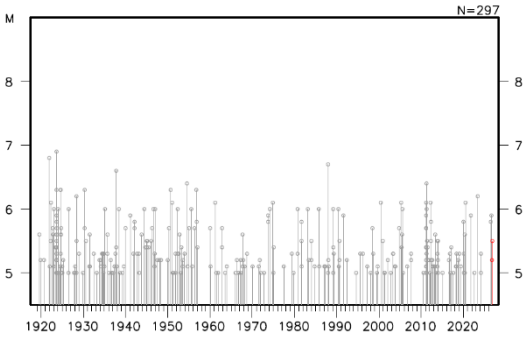
気象庁作成

震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0 ～120km、M≧5.0）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示



1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

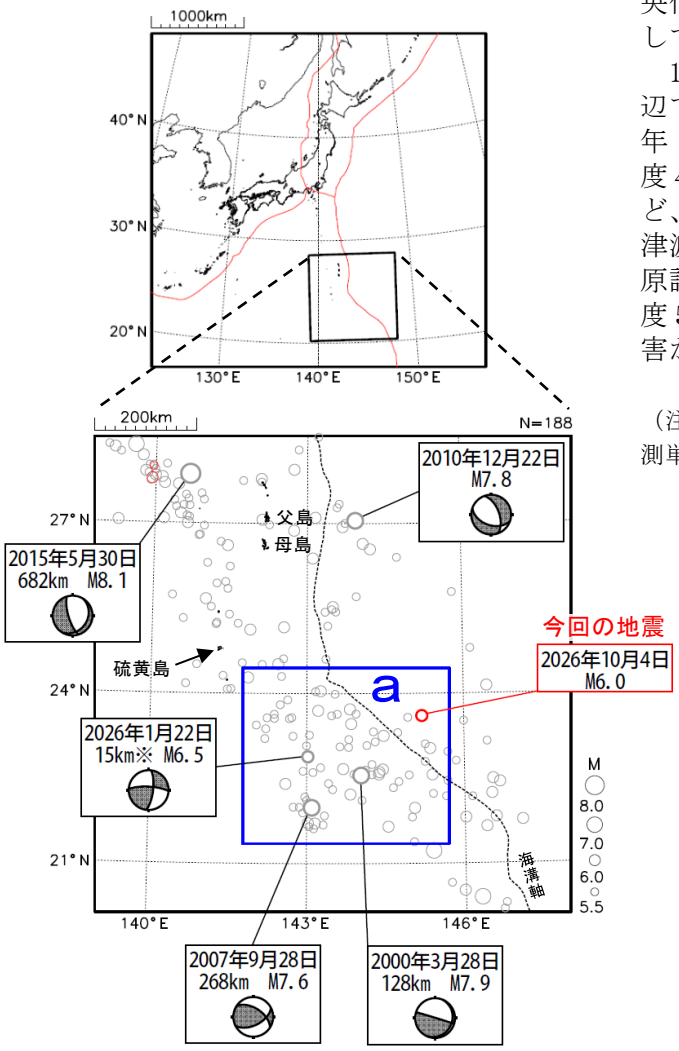
領域ｃ内のＭ－Ｔ図



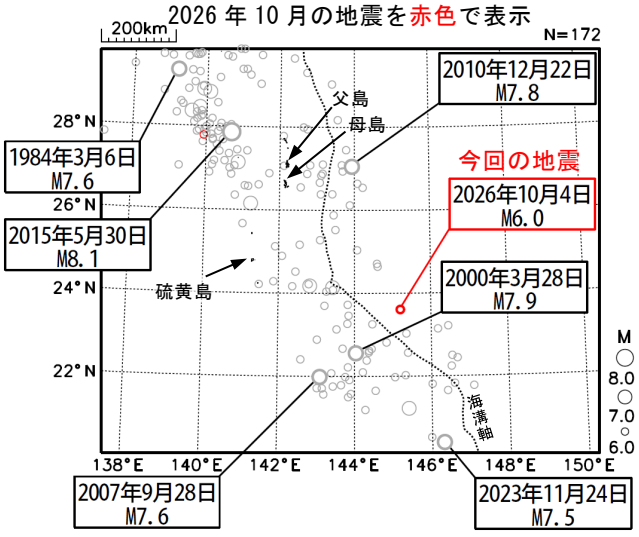
気象庁作成

10 月 4 日　硫黄島近海の地震

震央分布図
（2000 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0 ～700km、M≧5.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解
深さに「※」を付したものは、CMT 解による



震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0 ～700km、M≧6.0）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示



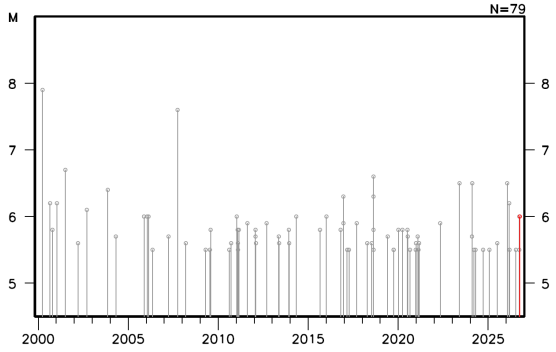
2026 年 10 月 4 日 20 時 12 分に硫黄島近海で M6.0 の浅い地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。

2000 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域 a ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

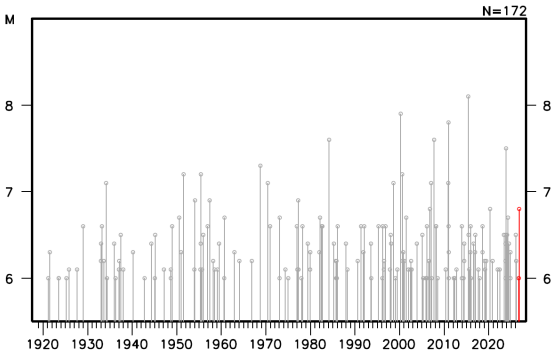
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震（最大震度 4）が発生し、八丈島八重根で 0.5m (注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震（最大震度 5 強）が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

（注）巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は 0.1m）。

領域 a 内のＭ－Ｔ図



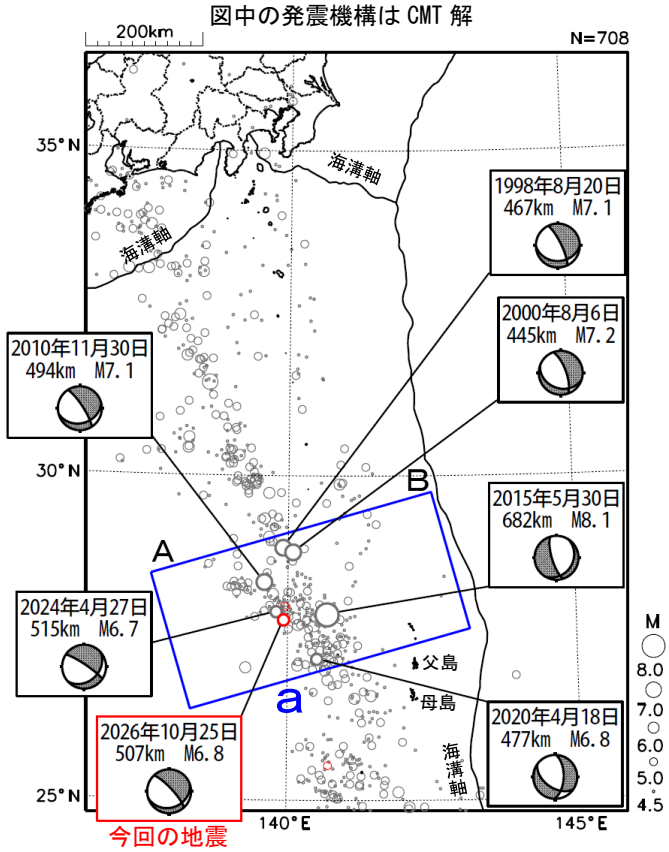
左図の領域内のＭ－Ｔ図



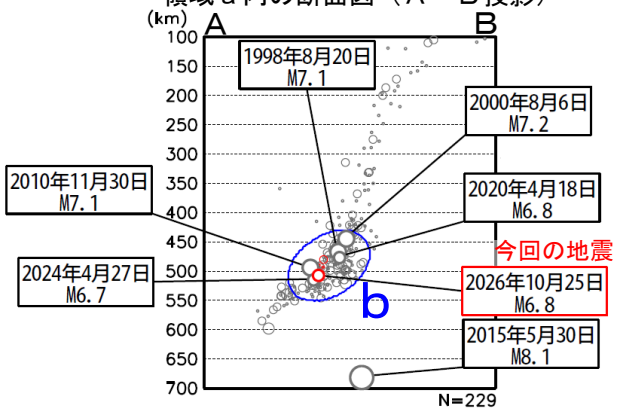
気象庁作成

10 月 25 日　小笠原諸島西方沖の地震

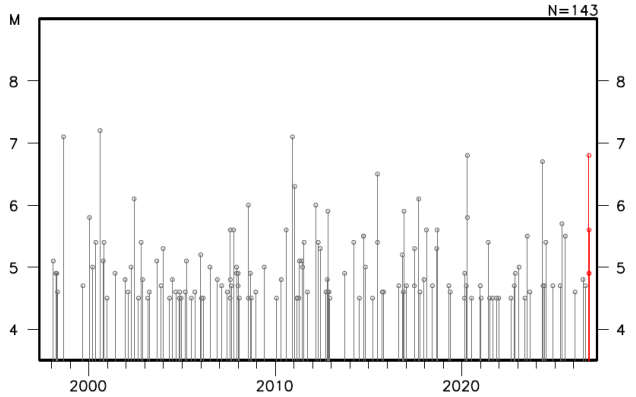
震央分布図
（1997 年 10 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 100～700km、M≧4.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解



領域 a 内の断面図（A－B 投影）



領域 b 内のM－T 図

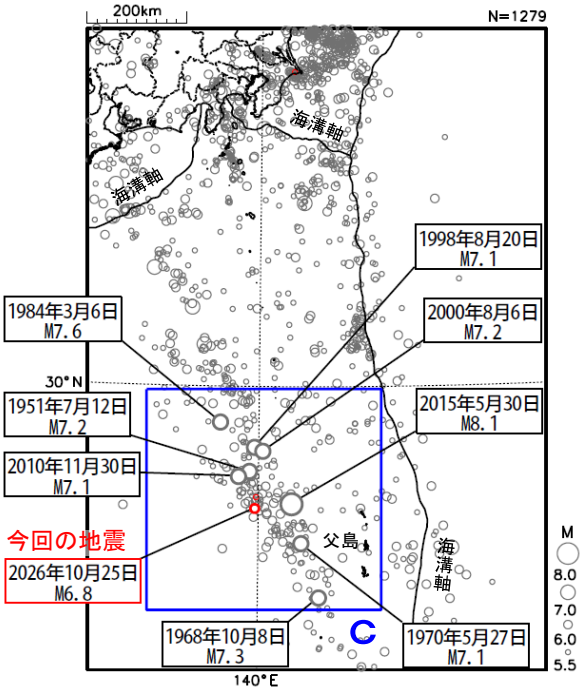


2026 年 10 月 25 日 11 時 09 分に小笠原諸島西方沖の深さ 507km で M6.8 の地震（最大震度３）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT 解）は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

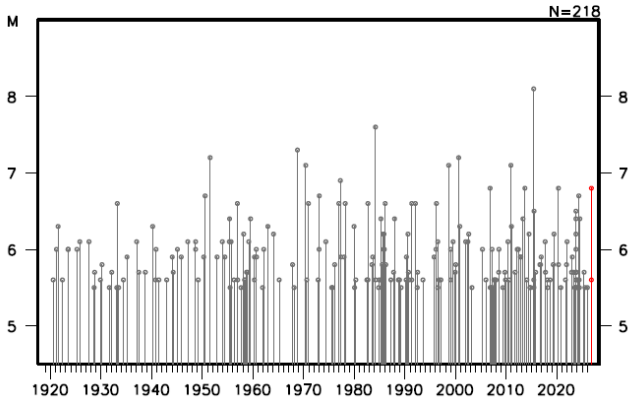
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。また、今回の地震の震源よりさらに約 170km 深いところでは、2015 年５月 30 日に M8.1 の地震（最大震度５強）が発生し、軽傷８人などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M7.0 以上の地震が時々発生している。1984 年３月６日には M7.6 の地震が発生し、死者１人、負傷者１人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図
（1919 年 1 月 1 日～2026 年 10 月 31 日、
深さ 0～700km、M≧5.5）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示



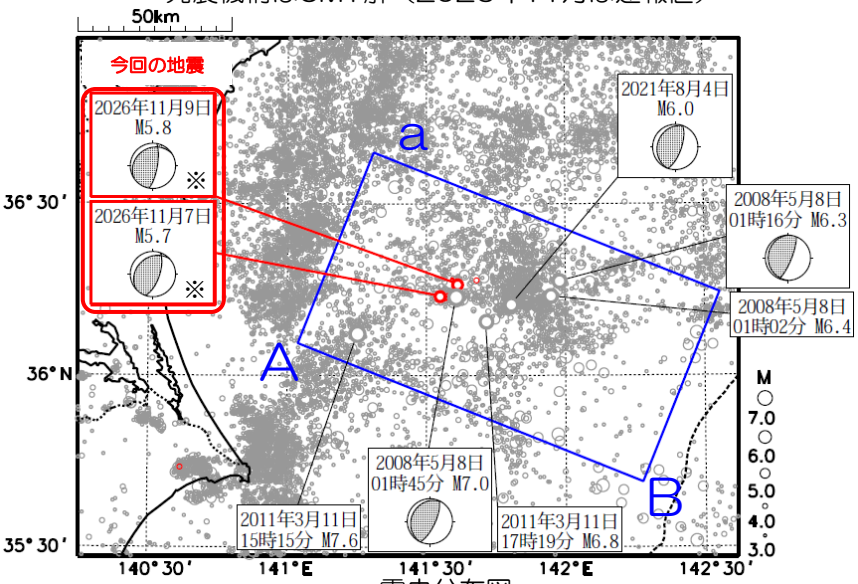
領域 c 内のM－T 図



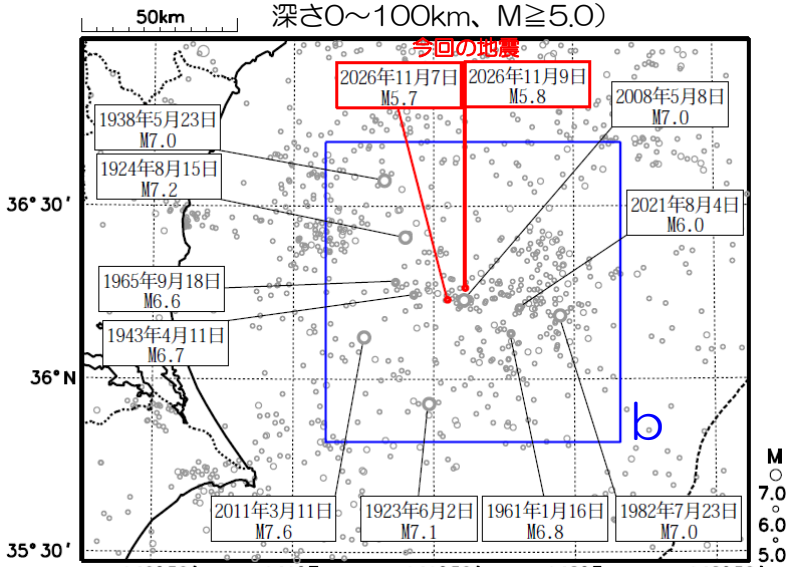
気象庁作成

2026年11月７日以降の茨城県沖の地震活動

震央分布図
（1997年10月１日～2026年11月10日08時、
深さ0～100km、M≧3.0）
発震機構はCMT解（2026年11月は速報値）



震央分布図
（1919年１月１日～2026年11月10日08時、
深さ0～100km、M≧5.0）



2026年11月7日20時07分に茨城県沖の深さ28kmでM5.7の地震（最大震度３）が、11月9日13時52分に茨城県沖の深さ28kmでM5.8の地震（最大震度３）が発生した。これらの地震は、発震機構（注）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

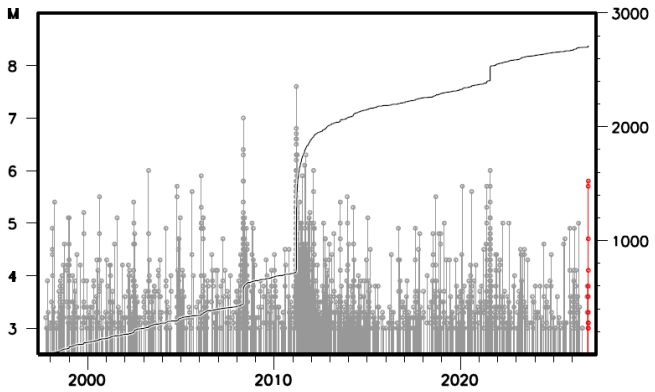
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ａ）では、M5.0を超える地震が度々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）ではM6.0を超える地震が時々発生している。

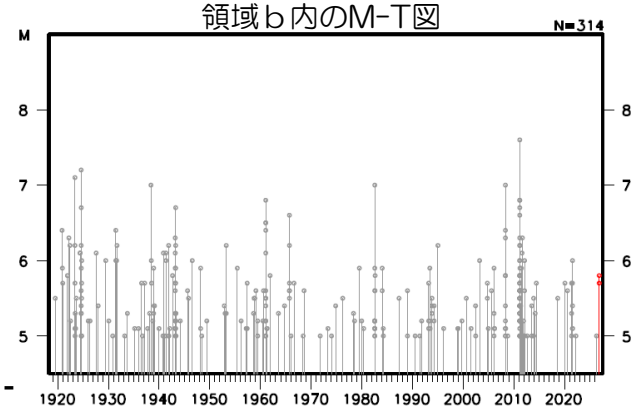
この地域では1982年7月、2008年5月、2021年8月など、M5以上の地震がまとまって発生した事例がある。1982年7月の地震活動の際には最大でM7.0（最大震度４）が発生し、牡鹿町鮎川（当時）で19cmの津波を観測した。2008年5月の地震活動の際には最大でM7.0（最大震度５弱）の地震が発生し、石巻市鮎川で14cmの津波を観測した。

注）速報的な自動解析結果であり、後日の精査により変更となる場合がある

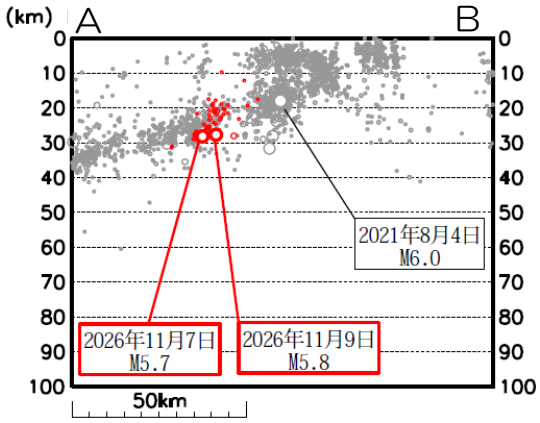
領域ａ内のM-T図及び回数積算図



領域ｂ内のM-T図



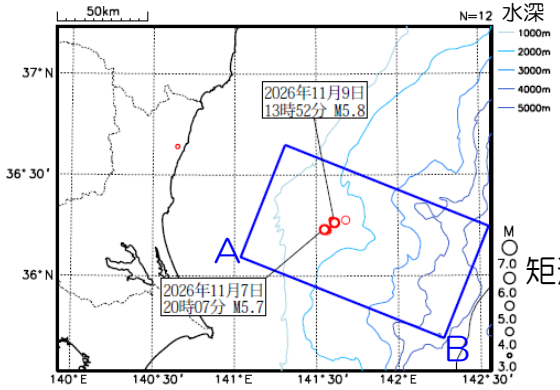
領域ａ内の断面図（A-B投影）
2020年10月以降、M≧2.0



気象庁作成

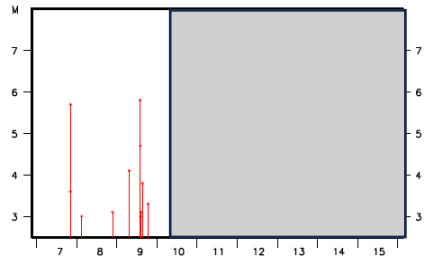
茨城県沖の地震活動（過去の活動との比較）

震央分布図
（2026年11月７日～１０日08時、
深さ０～100km、M≧3.0）

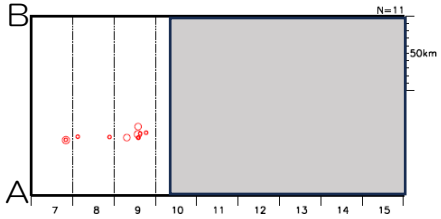


※9日以降の震源は未精査

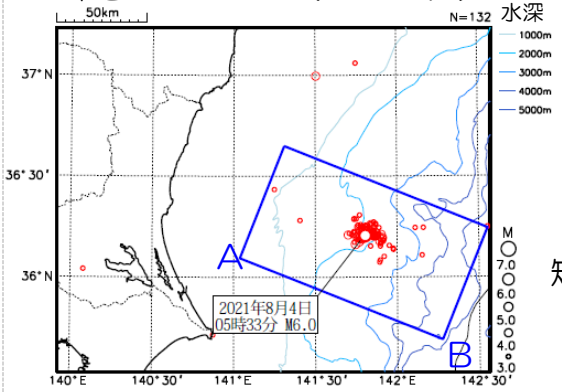
矩形内の地震活動経過図



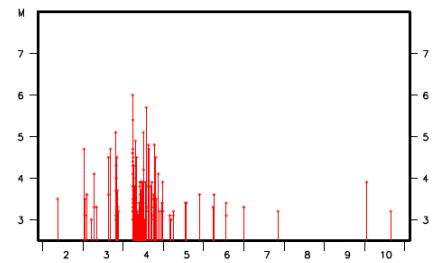
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



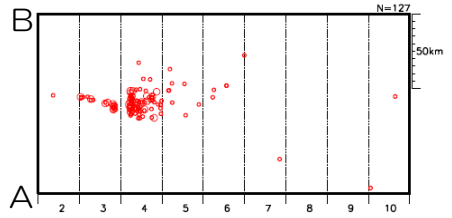
震央分布図
（2021年8月2日～10日、
深さ０～100km、M≧3.0）



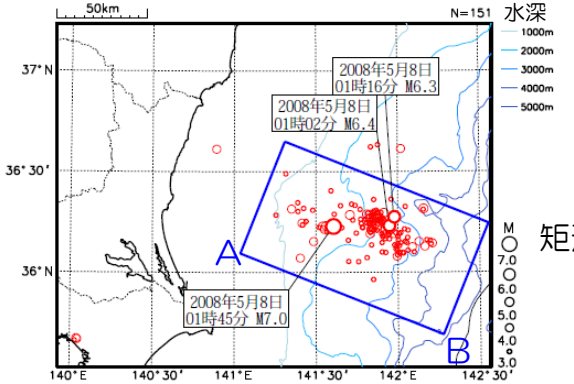
矩形内の地震活動経過図



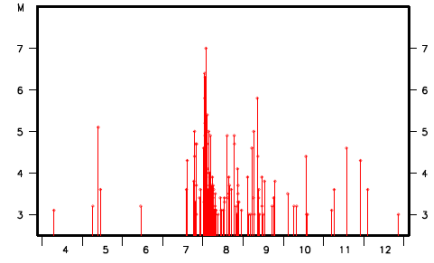
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



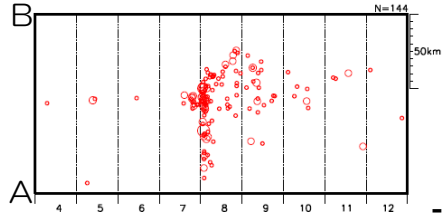
震央分布図
（2008年5月4日～12日、
深さ０～100km、M≧3.0）



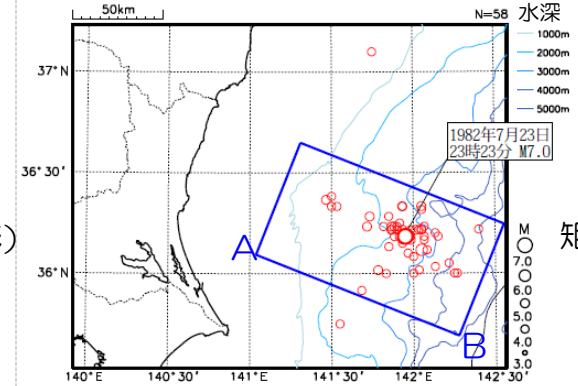
矩形内の地震活動経過図



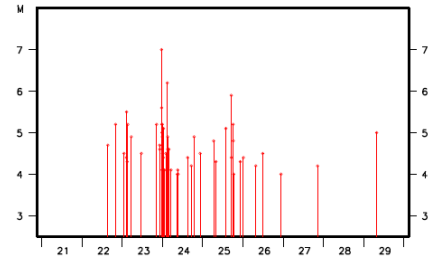
矩形内の時空間分布図（A-B投影）



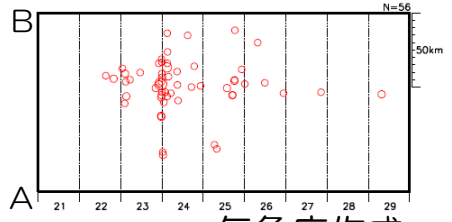
震央分布図
（1982年7月21日～29日、
深さ０～100km、M≧4.0）



矩形内の地震活動経過図



矩形内の時空間分布図（A-B投影）



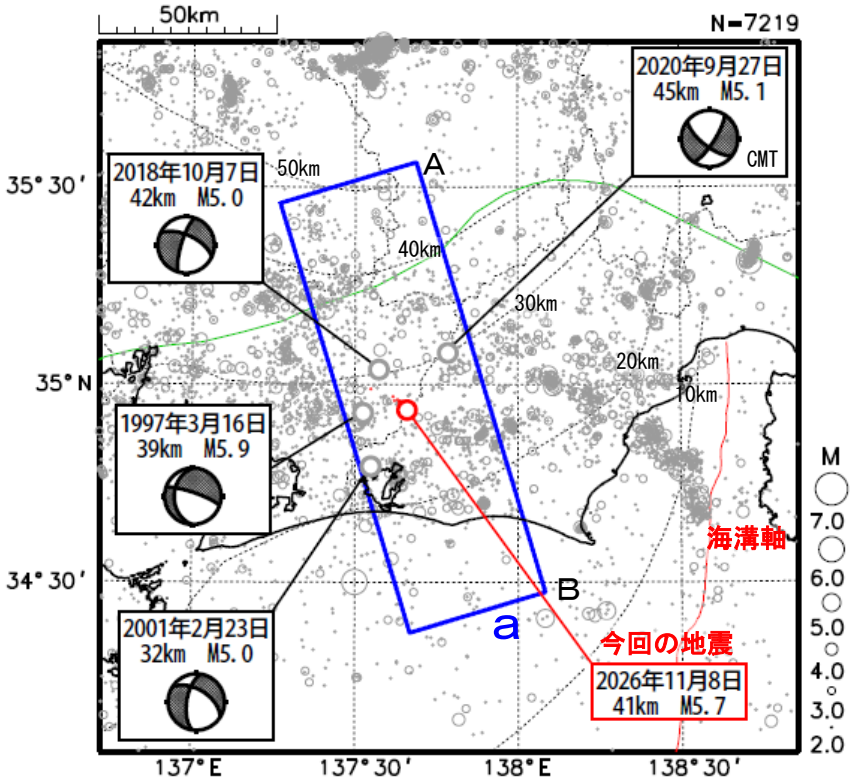
気象庁作成

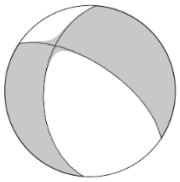
11 月８日　愛知県東部の地震

情報発表に用いた震央地名は〔静岡県西部〕である

2026 年 11 月８日 01 時 04 分に愛知県東部の深さ 41 kmで M5.7 の地震（Mw5.6、最大震度５強）が発生した。この地震は、発震機構（CMT 解）が東北東－西南西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震で、負傷者 22 人、住家一部破損２棟の被害が生じた（被害は、11 月 9 日 10 時 00 分現在、総務省消防庁による）。

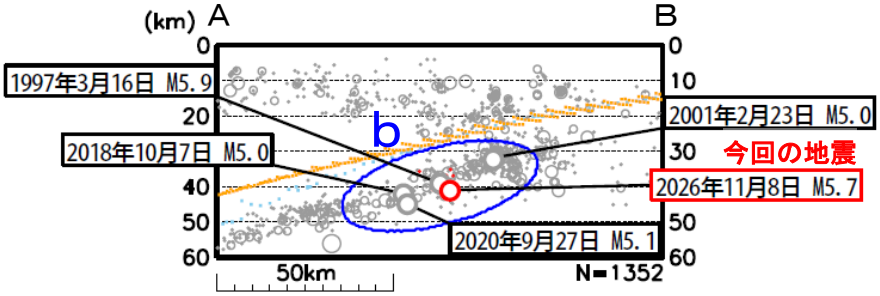
震央分布図
（1990 年１月１日～2026 年 11 月８日、深さ０～60km、M≧2.0）
2026 年 11 月８日の地震を赤色で表示



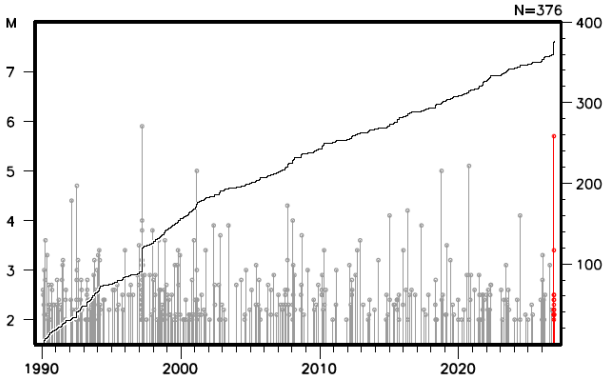


今回の地震の CMT 解
Mw5.6 セントロイドの深さ 34km

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内の M-T 図及び回数積算図



※ 震央分布図中の黒色の点線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)及び Nakajima and Hasegawa (2007)による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。緑色線は南海トラフ巨大地震の監視領域を示す。
※ 断面図中の水色の点線は Hirose et al. (2008)、Baba et al. (2002)、橙色の点線は内閣府 (2011) による フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。
※ 2026 年 11 月８日の震源要素は、今後の精査で変更する場合がある。

気象庁作成

防災上の留意事項と今後の見通し

（防災上の留意事項）

この地震による津波の心配はありません。

揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意してください。

（今後の地震活動の見通し）

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

（今回の地震と南海トラフ地震との関係）

今回の地震は南海トラフ地震の想定震源域の中で発生した地震です。

この地震の規模から、南海トラフ沿いのプレート間の固着状態の特段の変化を示すものではないと考えられます。

今後も地震活動や地殻変動を注意深く監視します。

2026年11月８日　気象庁報道発表資料
https://www.jma.go.jp/jma/press/2611/08a/kaisetsu202611080305.pdf

気象庁作成